

東日本大震災以前からの備え

宮城県沖では、約40年おきにマグニチュード7クラスの大きな地震が発生しており、地震に対する備えが大きな課題になっています。

仙台市では、東日本大震災以前から、過去に発生した地震を教訓にして、災害に強いまちづくりに取り組んできました。

● 宮城県沖地震

宮城県沖地震は、1978(昭和53)年に発生した地震です。この地震を教訓に、仙台市は、1979(昭和54)年に全国初となる「防災都市宣言」をして、6月12日を「市民防災の日」と決めました。古い建築物の耐震改修、ライフラインの耐震化、ブロック塀の除去、防災教育の強化などのさまざまな地震防災対策を実施し、安全な都市づくりを進めてきました。

地震の概要

- ① 発生日時 1978(昭和53)年
6月12日 17時14分
- ② 地震の規模 マグニチュード7.4
- ③ 仙台市内の震度 震度5
- ④ 被害状況
死者16人
重軽傷者10,119人
住家の全半壊4,385戸
住家の一部損壊86,010戸

防災都市宣言

1978年宮城県沖地震は、市民生活にかつてない打撃を与え、本市のみならず全国の都市に重大な警鐘を鳴らした。

本市はすでに、全国に先がけて健康都市を宣言し、清く明るく住よい都市づくりに全力を傾注してきたが、さらに今回の災害を貴重な教訓として都市防災をこれからの健康都市建設の基調に据え、災害に強く一層安全な都市仙台をめざすことを決意した。

よって、ここに6月12日を「市民防災の日」と定め、全市民とともに仙台市を防災都市とすることを宣言する。

昭和54年6月12日

仙台市長 島野武

「防災都市宣言」

● 阪神・淡路大震災

阪神・淡路大震災は、1995(平成7)年に発生した震災です。この震災をきっかけに、仙台市では、自主防災組織の強化、学校校舎を含む市が所有する施設の耐震化、ライフラインの耐震化、市民への情報提供と普及啓発など、地震防災対策を更に進めました。



東日本大震災以前からの備えの具体例

水道施設の備え

水道管の耐震化を進める

ガス施設の備え

ガス管の耐震化を進める

学校施設の備え

校舎の耐震化を進める

下水道施設の備え

下水道管の耐震化を進める

災害廃棄物への備え

震災がれき等の処理手順を定める

これらの備えにより、2011（平成23）年に発生した東日本大震災では、被害を最小限に抑え、復旧・復興に早期に取りかかることができました。

東日本大震災を教訓とし、復興に向けてどう行動していけばよいのかを学ぶための資料として、仙台版防災教育副読本「3.11から未来へ」があります。

仙台版防災教育副読本「3.11から未来へ」を活用して、災害に対する知識を深め、災害への対応力を身に付けていきましょう。



調べよう

「東日本大震災以前からの備えの具体例」に挙げられているそれぞれの備えには、地震に対してどのような効果があるのか調べてみよう。